



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二一五号）

小雪 しょうせつ 十一月二十三日

神宮徴古館

伊勢神宮や神道への理解を深めてもらおうと明治四十二（一九〇九）年に創建された倉田山の神宮徴古館^{あまうこかん}。かねてより進めていた耐震工事が完了し、装いも新たに開館しました。

さっそく訪ねてみると、創建当時のルネッサンス様式で花崗煉瓦^{かこうれんが}石積のテラコッタの外観はそのままに、入り口が本館正面に変わっていました。以前は建物の脇から入る動線になっていましたが、正面に入り口があることで重みが増したようにまず思いました。そしてエントランスに入ると、高い天井やその広さにこの建物の風格を改めて感じたのです。建物にとって、玄関口が極めて重要で、また訪れる人の印象を左右させるものだと展示を見る前に感心しました。

神宮徴古館の展示の魅力は、なんとといっても式年遷宮で撤下された御装束^{おんしょうぞく}神宝^{しんぼう}を拝見できること。これは他所ではかなわないことです。

そして、外宮で毎日行われている日別朝夕大御饗祭^{ひごとあきゆうおおみけ}で、神さまに食事を供える御饗殿^{みけでん}の復元展示が目を引きました。御饗殿は外宮にしかない建物で、板垣に囲まれた正宮の東北の位置に建ちます。今回の式年遷宮で建て替えられたので、この復元展示はそれまで建っていたもの。ここに神職らが毎日二度、食事を供えていたのです。復元建物を目の前にすると、高床式建物を昇る木の階段に目がいききました。幅は五十センチあまりでしょうが、人ひとりも昇れるだけの階段が、建物に並行して御扉前につけられています。手すりもない急な階段を一段ずつ足を揃えて昇る神職の様子を以前に記録映画で見えていましたから、感慨もひとしおです。

御装束神宝といい、この御饗殿といい、本物を拝見できる神宮徴古館は、さすが「お伊勢さんの博物館」です。

文 千種清美

